

みやざき

第7号

発行日 平成18年3月20日
発行 宮崎県埋蔵文化財センター
本館 〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地
分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号



しゅうせき いこう さんれき
集石遺構と散礫（川南町 中ノ迫第2遺跡）

東九州自動車道建設に伴い発掘調査を行った中ノ迫第2遺跡で検出された集石遺構と散礫です。約9千年前の縄文時代早期前半の遺構です。中央にある集石遺構の周りを礫が円形（直径約10m）に取り巻いています。集石遺構は石を焼いて、その熱により食物を蒸した調理施設と考えられています。

東九州自動車道(都農～西都間)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

●^{おばな}尾花A遺跡（川南町大字川南）平成16年9月～平成18年3月の調査

尾花A遺跡は国光原台地の縁辺部に位置する遺跡です。標高は約57m、平野部との比高差は約45mで、遺跡の立地する台地は南に小さく突出したような形状を呈しています。台地の端から南を見渡すと、平野の中央部を^{おまる}小丸川が東西方向に流れている様子が一望できます。

この国光原台地上には、湯牟田遺跡・国光原遺跡・^{あかさか}赤坂遺跡などの弥生時代後期から終末期を中心とする集落遺跡がいくつか見つかっています。尾花A遺跡からはそれに続く時期の古墳時代前期を中心とした100軒以上もの竪穴住居跡群を有する集落が見つかりました。竪穴住居跡はそのほとんどが重なり合った状態で確認されており、住居埋没後に新たな住居を建てていた様子うかがえます。このことから、集落が数世代にわたって営まれていたことが推測できます。

また、谷を隔てた西側の台地上には川南古墳群が形成されており、その中には尾花A遺跡の住居跡と定期的に近いと考えられる古墳も存在することから、この集落と古墳群との間の関連性について考えていく必要があります。集落がもっとも繁栄していた時代は古墳時代前期であると考えられますが、遺跡の中にはそれより古い時代や新しい時代にも人々の生活の痕跡が残されています。

この遺跡でもっとも古い旧石器時代では、石器を作った際に生じる剥片が数点見られるだけですが、縄文時代早期では集石遺構が100基以上も見つかり、土器・石器なども多く出土しています。これらの集石遺構は台地南端部分の限られた範囲に集中しているのが特徴的です。

弥生時代中期から終末期にかけての住居跡も10数軒確認されており、湯牟田遺跡や赤坂遺跡のように焼失住居と考えられる竪穴住居跡も数軒見つかり

ています。今後の調査によってそれぞれの時期における集落の広がりが明らかになっていくことが期待できます。この他にも古墳時代後期では竪穴住居跡や轡（馬具の一種）が出土した土坑、また古代・中世では掘立柱建物跡や石組遺構、道路として利用された可能性も考えられる溝状遺構などが見つかり



尾花A遺跡近景（北から）



複雑に重なり合う竪穴住居跡群

道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査情報

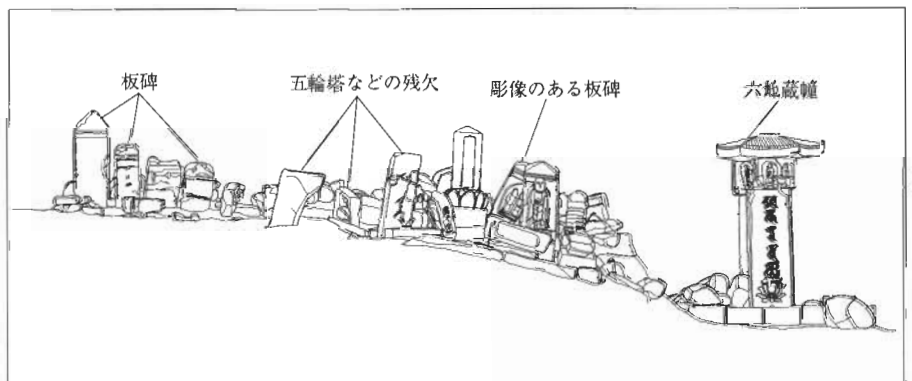
●^{そい}曾井第2遺跡（宮崎市恒久、一般国道269号交通円滑化事業）平成17年8月～平成18年2月の調査

曾井第2遺跡は宮崎市街地南西部、大淀川と清武川支流の古城川に挟まれた丘陵の東斜面裾部に位置します。標高は約9～12mですが、前面に宮崎平野が一望できる緩斜面に立地しています。遺跡の隣接丘陵には中世から戦国時代にかけて曾井氏・伊東氏の居城となった曾井城があります。

遺跡では、古代から近代までの幅広い時代の遺構・遺物が見つかりました。特筆すべきは、中世後半頃から江戸時代までの石塔群と江戸時代頃の掘立柱建物跡・井戸跡・石列・溝状遺構など屋敷地を連想させる遺構群が確認されたことです。これらの組合せを考えると寺院跡等の可能性も考えられます。この他、古代では土師器の埴や須恵器の甕が、中世では国産陶磁器（播鉢や甕など）や中国産陶磁器（白磁碗や龍泉窯系青磁碗など）が出土しました。



発掘前の石塔群

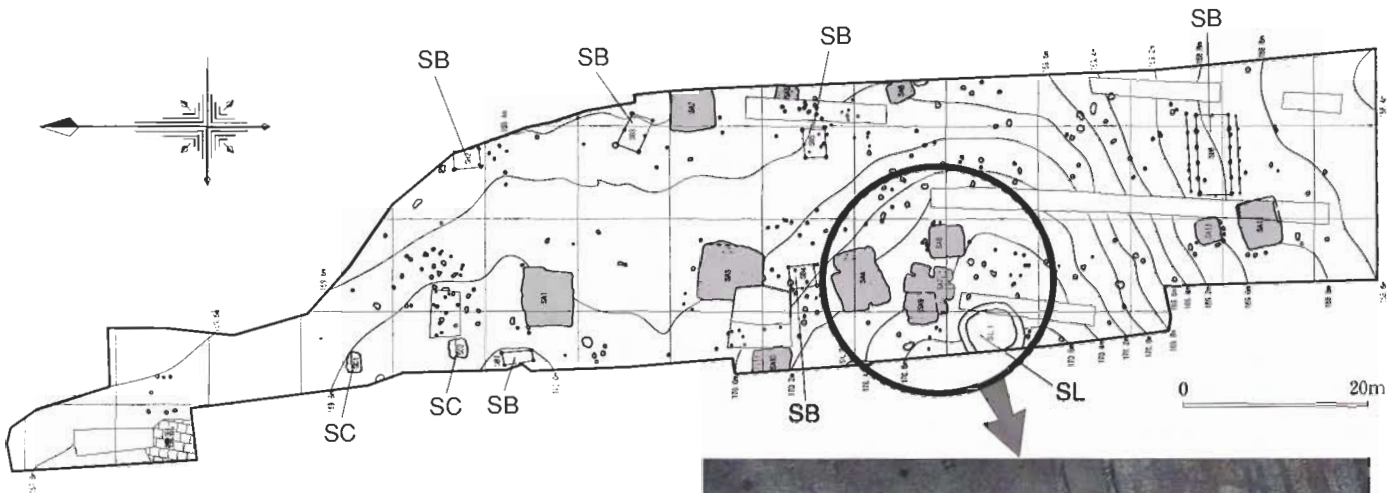


石塔群立面実測図（S=1/80）

●^{もろむぎ}諸麦遺跡（都城市平塚町、一般国道10号都城道路建設事業）平成17年7月～平成18年2月の調査

諸麦遺跡は都城市中心部から南西に約6km、鹿児島県との県境近くに位置しています。大淀川右岸に形成された標高約170mの台地上に立地し、遺跡からは北西に霧島連山を眺めることができます。

調査の結果、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡6棟、周溝状遺構2基、土坑2基や庇のある掘立柱建物跡1棟などを確認することができました。また、甕や壺などの弥生土器や石庖丁・磨石などの石器、中世の土師器皿や白磁碗などが出土しました。



※アミは竪穴住居跡、SB：掘立柱建物跡、
SC：土坑、SL：周溝状遺構

諸麦遺跡遺構分布図

竪穴住居跡については、南九州地方に多く見られる独特の花弁状住居も検出され、埋土中から土器のほか磨製石鏃が数点とモモの種子と思われる遺物が出土しました。



竪穴住居跡（花弁状）と周溝状遺構の完掘状況

夏休み特別講座

『発掘体験隊 掘り出せ歴史！』

平成17年8月27日（土）に、川南町の尾花A遺跡（東九州自動車道建設工事に伴う発掘調査）において、発掘体験を実施しました。当日は好天にも恵まれ、32名の親子連れなど一般の方々が参加されました。参加された方々は、それぞれ移植ごてやねじり鎌などの発掘用具を持ち、汗をかきながらも土を掘ったり削ったりして、土器片や礫などを見つけ大変満足していらっしゃいました。

当センターでは今後もこのような発掘体験を継続して実施する予定です。



土の中の遺物を探しています



土器を見つけたよ！

宮崎県埋蔵文化財センター

本館：〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171, 1172 FAX 0985-72-0660
分館：〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号 TEL 0985-21-1600 FAX 0985-26-2634
HPアドレス：<http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>